

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北陸財務局長

【提出日】 平成26年11月10日

【四半期会計期間】 第101期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 北陸電気工事株式会社

【英訳名】 HOKURIKU ELECTRICAL CONSTRUCTION CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 松岡幸雄

【本店の所在の場所】 富山県富山市小中269番

【電話番号】 076-481-6092

【事務連絡者氏名】 管理部 経理課長 出村昌規

【最寄りの連絡場所】 富山県富山市小中269番

【電話番号】 076-481-6093

【事務連絡者氏名】 管理部 経理課長 出村昌規

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第100期 第2四半期 連結累計期間 | 第101期 第2四半期 連結累計期間 | 第100期 |
|----------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日 | 自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日 | 自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 15,925 | 18,242 | 41,849 |
| 経常利益 (百万円) | 984 | 1,232 | 3,498 |
| 四半期(当期)純利益 (百万円) | 754 | 805 | 2,174 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 804 | 842 | 2,269 |
| 純資産額 (百万円) | 18,613 | 20,471 | 20,075 |
| 総資産額 (百万円) | 32,017 | 34,526 | 37,812 |
| 1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円) | 32.29 | 34.51 | 93.10 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円) | | | |
| 自己資本比率 (%) | 58.1 | 59.3 | 53.1 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 239 | 3,200 | 846 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 489 | 703 | 24 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 276 | 428 | 371 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円) | 7,256 | 9,852 | 7,783 |

| 回次 | 第100期 第2四半期 連結会計期間 | 第101期 第2四半期 連結会計期間 |
|-------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日 | 自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 16.19 | 19.82 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示している。

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は発生していない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。
なお、重要事象等は存在していない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費増税による反動減が見られるものの、政府による経済政策の効果により企業収益の改善が続き、景気は緩やかに回復した。

建設業界においては、公共投資の順調な推移や民間設備投資の増加など受注環境の好転が期待された一方、労務費・材料費の高止まりなどから建設コストが高み、受注・価格競争が厳しい状況で終始した。

このような状況のもとで、当社グループは全社を挙げて営業活動を展開した結果、売上高は182億42百万円(前年同期比14.5%増)となった。

また、利益面においては、工程管理・原価管理を徹底したほか、全般にわたる継続的なコスト削減に努めた結果、経常利益は12億32百万円(前年同期比25.2%増)、四半期純利益は8億5百万円(前年同期比6.8%増)となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

(設備工事業)

当社グループの主たる事業である設備工事業の売上高は、175億91百万円(前年同期比13.8%増)となった。

(その他)

不動産賃貸業等で、売上高は6億51百万円(前年同期比38.7%増)となった。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産額は、345億26百万円となり、前連結会計年度末と比べ32億86百万円の減少となった。これは受取手形・完成工事未収入金等の減少(65億19百万円)などによるものである。

負債総額は、140億54百万円となり、前連結会計年度末と比べ36億82百万円の減少となった。これは工事未払金の減少(24億44百万円)などによるものである。

純資産総額は、204億71百万円となり、前連結会計年度末と比べ3億96百万円の増加となった。これは利益剰余金の増加(3億62百万円)などによるものである。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の末日における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ20億68百万円増加し、98億52百万円となった。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益12億61百万円に対して、仕入債務の減少などがあつたものの、売上債権の減少などにより、32億円の資金増加(前年同期比34億40百万円増)となった。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入などがあつたものの、有形固定資産の取得による支出などにより、7億3百万円の資金減少(前年同期比11億92百万円減)となった。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや短期借入金の返済による支出などにより、4億28百万円の資金減少(前年同期比1億52百万円減)となった。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はない。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、特記すべき事項はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 42,000,000 |
| 計 | 42,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日) | 提出日現在 発行数(株) (平成26年11月10日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------------|------------------------------------|--------------|
| 普通株式 | 24,969,993 | 24,969,993 | 東京証券取引所 (市場第一部) | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 24,969,993 | 24,969,993 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成26年9月30日 | | 24,969 | | 3,328 | | 2,803 |

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (千株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|---|---|---------------|------------------------------------|
| 北陸電力株式会社 | 富山県富山市牛島町15番1号 | 7,076 | 28.34 |
| 北陸電気工事従業員持株会 | 富山県富山市小中269番 | 1,399 | 5.60 |
| 日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社 | 東京都中央区晴海1丁目8番11号 | 908 | 3.64 |
| 株式会社北陸銀行 | 富山県富山市堤町通り1丁目2番26号 | 526 | 2.11 |
| 株式会社北國銀行 | 石川県金沢市下堤町1番地 | 341 | 1.37 |
| 株式会社北陸電機商会 | 富山県富山市白銀町1番1号 | 300 | 1.20 |
| 日本生命保険相互会社 | 東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 | 297 | 1.19 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 | 257 | 1.03 |
| CREDIT SUISSE AG ZURICH FOR AIF FUNDS (常任代理人 株式会社三菱UF J銀行) | UETLIBERGSTRASSE 231, P.O.BOX 600 CH- 8070 ZURICH SWITZERLAND (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号) | 250 | 1.00 |
| 日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 | 東京都港区浜松町2丁目11番3号 | 241 | 0.97 |
| 計 | | 11,597 | 46.45 |

(注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式はすべて信託業務に係る株式である。

2. 当社は、自己株式を1,623千株(6.50%)所有しているが、上記大株主から除外している。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------|----------|------------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 1,623,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 22,944,000 | 22,944 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 402,993 | | 1単元(1,000株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 24,969,993 | | |
| 総株主の議決権 | | 22,944 | |

(注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」は、全て当社所有の自己株式である。

2. 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式426株が含まれている。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|----------------|--------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| 北陸電気工事株式会社 | 富山県富山市小中269番 | 1,623,000 | | 1,623,000 | 6.50 |
| 計 | | 1,623,000 | | 1,623,000 | 6.50 |

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

なお、従来、当社が監査証明を受けている太陽A S G有限責任監査法人は、平成26年10月1日に名称を変更し、太陽有限責任監査法人となった。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日) |
|----------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 8,083 | 9,852 |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 14,303 | 7,784 |
| 未成工事支出金 | 1,874 | 2,797 |
| 材料貯蔵品 | 299 | 295 |
| その他 | 811 | 770 |
| 貸倒引当金 | 73 | 109 |
| 流動資産合計 | 25,299 | 21,390 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 5,006 | 5,145 |
| その他(純額) | 4,926 | 5,250 |
| 有形固定資産合計 | 9,932 | 10,396 |
| 無形固定資産 | | |
| | 59 | 56 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 2,565 | 2,726 |
| 貸倒引当金 | 45 | 44 |
| 投資その他の資産合計 | 2,520 | 2,682 |
| 固定資産合計 | 12,512 | 13,135 |
| 資産合計 | 37,812 | 34,526 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 工事未払金 | 9,185 | 6,740 |
| 短期借入金 | 310 | 210 |
| 未払法人税等 | 1,010 | 380 |
| 工事損失引当金 | 112 | 105 |
| その他 | 3,030 | 2,212 |
| 流動負債合計 | 13,649 | 9,649 |
| 固定負債 | | |
| 役員退職慰労引当金 | 81 | 75 |
| 退職給付に係る負債 | 3,524 | 3,869 |
| その他 | 480 | 459 |
| 固定負債合計 | 4,087 | 4,404 |
| 負債合計 | 17,736 | 14,054 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,328 | 3,328 |
| 資本剰余金 | 2,803 | 2,803 |
| 利益剰余金 | 14,448 | 14,810 |
| 自己株式 | 686 | 689 |
| 株主資本合計 | 19,894 | 20,253 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 181 | 218 |
| その他の包括利益累計額合計 | 181 | 218 |
| 純資産合計 | 20,075 | 20,471 |
| 負債純資産合計 | 37,812 | 34,526 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

| | (単位：百万円) | |
|-----------------|---|---|
| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日) |
| 売上高 | 15,925 | 18,242 |
| 売上原価 | 13,999 | 15,843 |
| 売上総利益 | 1,926 | 2,398 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,128 | 1,234 |
| 営業利益 | 797 | 1,163 |
| 営業外収益 | | |
| 受取手数料 | 36 | 37 |
| その他 | 157 | 42 |
| 営業外収益合計 | 194 | 79 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 6 | 5 |
| その他 | 1 | 5 |
| 営業外費用合計 | 8 | 11 |
| 経常利益 | 984 | 1,232 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 12 | 22 |
| 投資有価証券売却益 | 30 | - |
| 子会社清算益 | 47 | 9 |
| その他 | 0 | - |
| 特別利益合計 | 90 | 32 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 0 | 0 |
| 固定資産除却損 | 17 | 2 |
| 減損損失 | 13 | - |
| その他 | 3 | - |
| 特別損失合計 | 33 | 3 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,040 | 1,261 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 164 | 365 |
| 法人税等調整額 | 121 | 89 |
| 法人税等合計 | 286 | 455 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 754 | 805 |
| 四半期純利益 | 754 | 805 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 754 | 805 |
| その他の包括利益 | | |
| 其他有価証券評価差額金 | 50 | 37 |
| その他の包括利益合計 | 50 | 37 |
| 四半期包括利益 | 804 | 842 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 804 | 842 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | - | - |

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,040 | 1,261 |
| 減価償却費 | 245 | 301 |
| 減損損失 | 13 | - |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 92 | 34 |
| 工事損失引当金の増減額(は減少) | 63 | 7 |
| 退職給付引当金の増減額(は減少) | 83 | - |
| 退職給付に係る負債の増減額(は減少) | - | 20 |
| 受取利息及び受取配当金 | 23 | 23 |
| 支払利息 | 6 | 5 |
| 有形固定資産売却損益(は益) | 12 | 21 |
| 有形固定資産除却損 | 17 | 2 |
| 投資有価証券売却損益(は益) | 30 | - |
| 売上債権の増減額(は増加) | 3,018 | 6,510 |
| 未成工事支出金の増減額(は増加) | 1,457 | 923 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 2,214 | 2,444 |
| 未成工事受入金の増減額(は減少) | 412 | 117 |
| その他 | 325 | 425 |
| 小計 | 617 | 4,174 |
| 利息及び配当金の受取額 | 25 | 24 |
| 利息の支払額 | 6 | 5 |
| 法人税等の支払額 | 876 | 992 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 239 | 3,200 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の払戻による収入 | 500 | 300 |
| 有形固定資産の取得による支出 | 361 | 1,077 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 60 | 56 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 266 | - |
| その他 | 23 | 18 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 489 | 703 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の返済による支出 | - | 100 |
| 自己株式の取得による支出 | 0 | 3 |
| 配当金の支払額 | 185 | 231 |
| ファイナンス・リース債務の返済による支出 | 90 | 94 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 276 | 428 |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 27 | 2,068 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 7,284 | 7,783 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 7,256 | 9,852 |

【注記事項】

(会計方針の変更等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更した。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減している。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が324百万円増加し、利益剰余金が209百万円減少している。なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微である。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日) |
|---------|---|---|
| 従業員給料手当 | 650百万円 | 670百万円 |
| 退職給付費用 | 40 " | 36 " |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりである。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日) |
|----------------------|---|---|
| 現金預金勘定 | 7,556百万円 | 9,852百万円 |
| 預入期間が3か月を超える 定期預金 | 300 " | " |
| 現金及び現金同等物 | 7,256 " | 9,852 " |

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成25年6月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 186 | 8 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月28日 | 利益剰余金 |

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成26年6月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 233 | 10 | 平成26年3月31日 | 平成26年6月30日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

当社グループの報告セグメントは設備工事業のみであり、その他の事業については重要性が乏しいため、記載を省略している。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

当社グループの報告セグメントは設備工事業のみであり、その他の事業については重要性が乏しいため、記載を省略している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

| 項目 | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日) |
|-----------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 32円29銭 | 34円51銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額 (百万円) | 754 | 805 |
| 普通株主に帰属しない金額 (百万円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円) | 754 | 805 |
| 普通株式の期中平均株式数 (千株) | 23,358 | 23,350 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月10日

北陸電気工事株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

| | | | | | | |
|--------------------|-------|---|---|---|---|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 山 | 本 | 栄 | 一 | 印 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 泉 | | 淳 | 一 | 印 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている北陸電気工事株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、北陸電気工事株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。